

# シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

## ～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

ひらみいけのうちほぜんかつどうかい・ひろたのうちほぜんかつどうかい

Vol.4 平見池農地保全活動会・広田農地保全活動会（紀宝町井田）の軌跡



——美しい里山を守り、次の世代へつなぐ——

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへつなげるための足跡となっている。本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。今回は、紀宝町井田で柑橘と水稲の産地を守る2つの組織を紹介する。

国道42号線沿いにある道の駅ウミガメ公園付近は、大型トラックや観光客の車で賑わっていた。そこから横道に入ると、辺りは草の匂いに満ち、耳に入る音は車の通行音から、カエルなどの虫や鳥の鳴き声に変わる。井田地区は現在、柑橘の園地と水稲の田んぼで多様な作物が栽培されているが、約50年前は一面田んぼが広がる米どころであったそうだ。

楽しそうな笑い声と共に、平見池農地保全活動会の前地さんと広田農地保全活動会の楠本さんが待合せ場所に現れた。

——お二人は以前からお知り合いだったのですか

楠本——前地さんは、僕の同級生のお父さんなんです。昔から地域のことなどを色々教えてもらっています。

前地——祐介は小さなときからよく知っていますが、今もこうやって農業

や地域を守る活動を通じてつながることができて大変嬉しいです。

——それぞれの組織の活動について教えてください

前地——平見池農地保全活動会は、柑橘栽培をしている農業者25名と、地域住民数名で活動しています。この地域での柑橘栽培に欠かせない水源である、平見池の草刈り等の維持管理を主に行っています。

楠本——広田農地保全活動会は、水稲栽培をしている農業者8名で、草刈りや用水路の点検等を主に行っています。

私はまだ就農3年目で、Uターンで就農するまでは、親の手伝いとして農作業をしながら、組織の活動に参加していました。今年度からは、書記として積極的に活動に関わっています。

——活動をするなかで工夫していることはありますか

前地——平見池は堤体の高さが約11m、長さが約70mある大きな池で、法面の傾斜も急なので、草刈りをするのがとても大変です。作業者が高齢なこともあり、安全には十分に注意をしながら活動をしています。

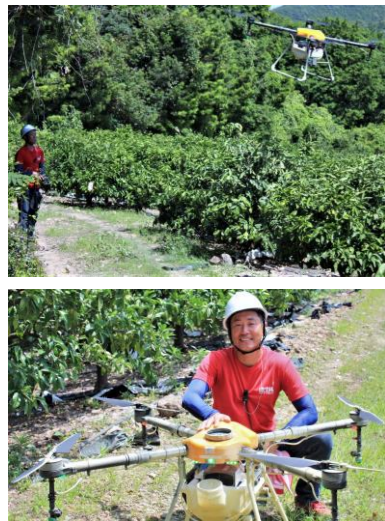
楠本——いつも地域の草刈りをボランティアでやってくれている方たちがいるのですが、頼りきりになってしまつては、取り組みとして継続しないのではないかと危機感があり、その方たちにも組織のメンバーになってもらいました。これまでは農業者だけの取組でしたが、これからはその方たちと一緒に、地域全体を守る活動をしていきたいと思っています。

——今後の展望をお聞かせください

楠本——米作りにおいては、ドローンを使った防除などのスマート農業に取り組んでおり、作業の効率化を実感しています。そして、昨年からは柑橘の栽培にも挑戦しています。



【上:平見池、下:平見池農地保全活動会の石本代表(右)と前地さん(左)】



【ドローンと楠本さん】

地域農業の変化に挑み続ける  
若い世代へ  
つなぐ思い



平見池農地保全活動会  
書記/会計 前地 敏久さん

広田農地保全活動会  
書記 楠本 祐介さん

僕は井田地区以外にも、町内の大里地区でも担い手として米作りをしていて、その地区でも今年度から新たに多面的機能支払活動を始めました。そちらの方でも地域を守る活動を頑張っていきたいと思っています。

前地——私も4年間県外の学校へ行っていたが、「地元を守らなければ」という思いがあり、紀宝町へ戻りました。昔、青年団でやっていろいろな行事も、今では少なくなってきました。農業もそうですが、祭りや盆踊りなどの地域の行事や伝統も、祐介たち若い世代に引き継いでいきたいと思っています。



■取材を終えて

柑橘産地を守る平見池農地保全活動会と、水稲産地を守る広田農地保全活動会は、組織としての活動は別であったも、地域に対する思いは共通している。柑橘と水稲は農繁期が異なるからこそ、お互い助け合える体制を築けるのではないかと話もあった。異なる作物を栽培しているも、異なる地域で活動しているも、架け橋となる人がいることで思いは共有され、様々な考えを吸収しながら、より良い地域づくりがなされていくのだと感じた。



取材:三重県熊野農林事務所 山口、福永(令和5年6月)  
問い合わせ先:同所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

